

二町内の自治会新聞

熊本大震災に寄せて

四月十四日そろそろ寝ようかとする時間帯に今まで経験したことのない揺れに襲われました。突然のことで恐怖というより呆然としていたように思います。しばらくして電話が鳴り、内容は、公園を開放して下さいという要望だった。

我に返って、公園へ走った。公園は、避難してきた人で一杯だった。

避難訓練では、人員点呼名簿の作成となっていたができるような状態ではなかった。その後健軍小学校へ移動となっていたが夜道を安全に移動することは、不可能に近いと思った。常備の防災グッズを所持した人も半分以上以下だったように思う。

四月十六日深夜二度目の地震に見舞われた。前回よりも強烈で約一時間揺れ続けたように思

う。茶筴箆や本棚が倒れガラス戸は、外れ、屋根瓦が飛んだ。

家が倒れはしないか、本当に身の危険を感じた。いたたまれず家を捨て、自動車で公園に避難した。公園は、自動車で一杯になっていた。

これから三日間自動車の中で眠ることになった。小さい車に三人もの大人が寝るのは、大変窮屈であった。

三日間は、自分で食いつなげと言われているように何とか持ちこたえることができた。

四日目頃から救援物資が入ってくるようになった。第四分団長の浅野さんの計らいよろしく、避難者の人数分は確保することができた。駐車している自動車は、六十台程度一台平均四人とすると二百四十人分の水食糧が届けられるようになった。

事務局
村上徹郎
TEL 368-5384
住所 健軍本町 26-3

二百人以上の人がこの狭い本町公園で生活を共にすることになりました。一人一人が自分勝手なことになります。パニック状態になります。

ところが何一つ問題が起ころなかった。むしろお互いが助け合う光景が見られ、大変うれしく思いました。

食料、水は確保できましたがトイレの水がなくて大変困りました。

女子トイレは、排泄物で一杯になり、異臭ふんぶんこのままでは使える状態ではありませんでした。

ここで自然発生的にボランティアが結成され、トイレの清掃を初め、小学校のプールの水を運ぶことになりました。その後二回、三回と水が運ばれてきました。

三度三度の食事も混乱することなく公平に配分されました。これもボランティアの皆さんのお蔭です。

ボランティアはさらに発展し、釜戸を作り炊き出しまではじめました。しかも中身は、自分たちの冷蔵庫から持ち寄った肉や野菜でした。

心温まる豚汁、カレーがふるまわれました。今回の大震災は、都市ガスと水道は、止まったけれど電気が流れてくれたので大助かりでした。

暗闇の中での避難となれば二次災害も起きていてことと思えます。

飲料水、食料に関して、不足することなく届けていただきました。行政や自衛隊の皆さんに深く感謝申し上げます。

また車の中の避難生活は、不自由でしたがボランティアの皆さんのお蔭でより気持ちよく、より快適に過ごすことができました。

第二回目の地震で筆筒家具類の倒れる中独居老人の方が救助がなされています。(名前は伏せます)支援物資が届く前東部青果より大量のバナナの差し入れがありました。

衷心より御礼申し上げます。

日本はだめになったということをよく耳にしますがこの本町公園で繰り広げられたドラマは、本当に素晴らしいの一語に尽きます。

集団生活をしていく上での道徳心「他への思いやり」「世のため、人のため」といった徳目がいかななく発揮されました。まだまだ日本は捨てたもんじやないないと思えました。

ゴミステーション

熊本大震災も早一か月を過ぎ、ゴミ収集も通常に戻りました。

ところが災害ゴミが占拠して、通常ゴミの場所が確保出来ません。自治会でも十六ヶ所のゴミステーションを回り、通常ゴミ置き場を確保しました。通常ゴミと災害ゴミの置き場を表示しましたのでその通りお願いします。

これからの災害ゴミはゴミゼロコールを利用して自宅前をお願いします(353 7171)

大型家電(テレビ、冷蔵庫、洗濯機等)は、災害ゴミではありません。

ミではありません。

自宅前がゴミステーションになっているご家庭では、一ヶ月以上にわたる災害ゴミの山に囲まれ大変ご迷惑お掛けしました。そのことにつきまして何の苦情も聞いてはおりませんが本当に有難うございました。

本町公園の清掃

熊本大震災により町内一斉清掃は、中止になりましたが公園清掃は、六月五日(日曜日)午前七時より行います。多くの皆さんのおいでを待ちしております。

第十七回二町内夏祭り

今回は、熊本大震災に鑑み、自粛させて頂きます。役員一同が知恵をばり、皆さんが喜んで参加できるようにイベントを企画したいと思います。

たけみや灯路秋祭り、ちびっ子町づくり相撲大会も自粛することになりました。

八丁馬場選定作業

六月十二日八時より実施